

平成 2 5 年

亀山市教育委員会 8 月定例会会議録

亀山市教育委員会 8月定例会会議録

1. 日 時

平成25年8月22日（木）13時30分開会

2. 場 所

亀山市役所本庁舎3階 大会議室

3. 出席委員

1番委員	肥 田 岩 男
2番委員	伊 藤 ふじ子
3番委員	岡 田 香
4番委員	村 山 竹 則
5番委員	井 上 恭 司

4. 欠席委員

なし

5. 議事参与者

教育次長	石 井 敏 行
教育総務室長（以下総務室長という。）	原 田 和 伸
学校教育室長（以下学校室長という。）	服 部 裕
教育研究室副室長（以下研究副室長という。）	渥 美 厚 子
生涯学習室長（以下生涯室長という。）	伊 藤 早 苗
図書館長	鳴 川 隆 久
歴史博物館長（以下歴博館長という。）	亀 山 隆
まちなみ文化財室員（以下まち室員という。）	河 戸 濟
教育総務室主幹（書記）	木 崎 保 光

6. 会議録署名者指名

3番委員（岡田香委員）

7. 前回会議録の承認（7月定例会、第4回臨時会）

承認

8. 教育長報告

教育長 教育長報告の主なものを「平成25年8月定例会教育長報告」に基づき報告。

7月26日道徳教育担当者研修会、31日保幼小中等連携協議会、8月2日学校経営に関する学校リーダー研修会、8月5日防災に関する学校リーダー研修会、8月8日歴博活用研修会、夏季学校給食研修会とさまざまな研修会を実施。各学校の担当者並びに希望者も含めて、教育研究室で必要とされている内容をメインに研修会を開催した。これからの施策を考えていくうえで、時間の許す限り研修会に参加している。

7月26日の道徳教育については、道徳教育の進め方ということで各学校の担当者が熱心に聞いていた。幼小中等連携協議会については、安見先生の話聞きつつ、亀山市の幼児教育の取組について相談もしている。学校リーダー研修会の学校経営について、いまなぜコミュニティスクールが必要になってきているのかをさまざまな事象を捉えながら、今の流れになっている理由付けを聞き、理解できる内容であった。川口先生は、防災ということで、注目度が高い内容で研修を深めることができた。

歴博の活用については、実体験とともに非常に面白い内容であった。給食については、毎年しているが新メニューの開発で食育ということも主眼において、色々なメニューが検討された。

このように教育研究室を中心にして、夏休み期間中の研修会、講習会を行った。

8月8日、9日と亀山市と災害時の協定を結んでいる高梁市の

中学生が訪問し、9日の朝、武道場を見学したので、少し話をした。この交流を更に深めていきたい。

8月17日、18日全国中学校のソフトボール大会の開会式と大会が行われ、委員の皆様も出席し、応援いただきありがとうございました。おかげさまで無事に終了し、亀山に良いイメージを持っていただけたのかなと思っている。四国代表の仁淀川町立池川中学校が優勝した。亀山中学校の生徒が全国レベルで試合をできたことは、良い経験をしたと思う。

以上、報告する。

教育長報告について、質問を求める。

(質問はなく、教育長報告を終わる。)

9. 議事

委員長

それでは、議事に入ります。

本日は、議案が3件です。

はじめに議案第30号「市職員の人事異動について」を上程し、事務局の説明を求める。

教育次長

議案第30号「市職員の人事異動について」、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第23条の規定に基づき、議決を求める。

委員長

議案第30号は、人事に関するため、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第13条第6項ただし書に基づき、非公開に当たる各委員に諮る。非公開としてよいか。

(全委員異議なし)

委員長

議案第30号「市職員の人事異動について」は非公開とする。関係職員以外は退室を願う。

(関係職員以外退室)

《非公開》

(議案第30号「市職員の人事異動について」は可決される。)

(退室した職員入室)

委員長

議案第31号「平成25年9月亀山市議会定例会教育行政現況

報告について」を上程し、事務局の説明を求める。

教育次長

平成25年9月亀山市議会定例会に提出する教育行政現況報告を策定するについて、委員会の議決を求める。

(事務局にて教育行政現況報告を朗読する。)

委員長

議案第31号について、質問を求める。

井上委員

1ページの熱中症の関係で「重ね重ね注意喚起をさせていただきました」とある。そのとおりだが、この事だけで議員や市民の理解が得られるのかと考える。具体的な措置対策は、指摘されないか。2ページの防災活動と体罰の関係がひと括りに記載されているが、並列になるものではないと思う。「体罰の禁止」と「体罰の撲滅」という言葉が使用されている。撲滅ということは、体罰があるから撲滅するということになる。このことが「教職員一人ひとりが・・・」と苦しい表現になっているのではないか。井田川小学校の児童が全校大会で優勝したことが記載されているが、これは学校の指導の外的内容なのでどうなのか。2ページ下から3行目に支援とあるが、具体的な支援を問われるのではないか。支援の中身をどのように考えているのか。3ページの3行目に教育相談窓口とあるが、実態や実績はどうなっているのか。インターネットの関係で、「トラブル防止に関する啓発を推進する」とあるが、特に生徒に対しては指導になるのではないか。学力について、「小学生の無回答率が大きく低下した」とあり、このことが学力向上に繋がったように目立ってみえる。書くのであれば、学校現場の努力であったり、教育委員会の施策を記載すべきである。教育総務室の関係になるが、学校施設の整備状況について、3校だけ取り上げているが、他の学校の要望に対応している事は、記載されていない。学校の教育環境整備に努めていることを記載してもいいのではないか。4ページの青少年健全育成関係で、大人や地域社会が子どもたちの育成に関わっているのは、サマーキャンプだけでは無いだろう。市子連なども関わっており、サマーキャンプだけの記載は、他の活動がかすんでしまう。PTA関係について、亀山市P連が活動しているのであれば、市P連の事を記載すべきである。

教育長

熱中症については、保護者も感心が高まっている。特に問題があったとは聞いていないが、こちらとしては注意喚起を促すだけ

となる。防災活動と体罰は、危機管理意識ということで記載した。市内では、新聞報道のような体罰は、起こっていないが、県教委の方で体罰撲滅とか禁止ということを使用しているが、表現を改めるか検討させていただく。井田川小学校の児童については、昨年も優勝しており、議員から指摘があった。今年は2年連続で優勝し、新聞にも大きく取り上げられており、また、子どもたちは、運動だけでなく文化的なことでも活動しているので掲載させていただいた。支援については、予算的な措置となり、対応している。教育相談窓口については、昨年度から体制をとっており、校長会でも周知している。インターネットの関係でラインについては、夏休み前に保護者宛に教育長名で啓發文書を出したので、啓発という言葉を使用した。当然指導に繋がるので指導を加えます。学力については、子どものテストを受ける姿勢を意識させたのが今年の大きな変化と考える。教育総務室については、主要事業をメインに記載しており、当然他の業務も行っているが、大きなことを記載した。青少年健全育成について9月議会では、サマーキャンプのことを掲載したいということだったので取り上げた。PTA関係については、市P連は実行委員会として取り組んでいる。アトラクションで11時過ぎから亀山少年少女合唱団が演奏する。昼食の時間帯に放課後子ども教室の成果を発表すると聞いている。

委員長 2ページの邁進という言葉はどうか。それと3ページの「Q-Uテスト」という言葉は市民に分りにくいのではないか。

学校室長 学級満足度テストと改めることは可能です。

村山委員 将棋の2連覇というのは、学校の活動とは別の活動なので、記載すべきではないのでは無いか。

教育長 教育委員会として判断していただいたということで受け止めます。

井上委員 サマーキャンプは、教育委員会活動と共催なのか。

教育次長 後援です。

井上委員 後援ならば、市子連の活動などを取り上げてしかるべきだ。

委員長 いろいろご意見をいただいたが、修正する部分は、事務局で修正し、最終的には、私に一任いただくということによろしいか。

(ほかに質問はなく、議案第31号は可決される。)

委員長 議案第32号「平成24年度教育委員会活動の点検及び評価報告書について」を上程し、事務局の説明を求める。

教育次長 (提案理由説明)

委員長 議案第32号について、質問を求める。

井上委員 評価については、指標の設定のレベルや評価の基準によって、評価が変わる。指標の設定については、低いのは困るが、無理はしない方が良いという感想を持っている。自信を持って評価していただいているのではないかと。「4. 生きがいを持てる福祉の展開 (1)生涯学習の推進」は、総合判定Bですが、主要事業では、ひとつはBでひとつはAの判定になっている。主要事業以外はBですから、Bと付けざるを得ないのか、あるいはA、Bにこだわらないところで総合判定をしているのか、どうなのか。というのは、次のページの「5. 次世代を担う人づくりと歴史文化の振興 (1)子どもたちの学びと健全育成」のところですが、主要事業16のうち13事業がAとなっており、主要事業以外でも9のうち8事業がAとなっているにもかかわらず、総合判定がBということで、評価が厳しいと感じた。多岐にわたる膨大な事務局の仕事により、教育委員会事務局職員が過剰労働になっていないか。職員の執務実態、健康状態について、きっちり担保していくのが教育長の仕事と考える。それと標準事業については、計画値をあげていない。ところが外国人児童生徒教育支援事業については、計画値があがっている。そして、計画5校に対して実績5校、計画80人に対して実績80人、計画15%に対して実績12.9%となって、これは数値が少ない方が良いのだと思うが、これだけ計画より良い数値をだしているのであれば、総合判定Aで良いのではないかと。他の標準事業については、計画値が無いのでわからないが、とにかく自分たちのやっている事業に自信をもって行っていただきたい。

教育長 時期によって、やはり遅くまで仕事を行っているときもあるが、休暇を上手に使うのもそれぞれの力量と知っている。仕事をうまくこなし、突発的なことは別だが、事務局の職員は、たくましく優秀でよくやってくれている。その辺のコントロールも適切にこなしていると思う。

教育次長 施策評価シートについて、どのような総合判定をしているのか

ということですが、この基本施策は、第1次総合計画の後期基本計画ということで、平成28年度の目標に向かって取り組んでいるところです。これらの事業を積み重ね、基本施策の目標に向かって取り組んでいるところで、その期間中の評価ということで、単年度で見るとA判定ということですが、後期基本計画の目標に向かってどのように進んでいるのかということでB判定としています。

井上委員 よく理解できたが、「生涯学習の推進」については、Bが多いのであれば、最終年度でもBになるのか。

教育次長 標準事業でB評価が多いわけですが、担当のほうも計画を立て目標に向かって取り組んで順調に進んでいるところで、最終的にAを目指し、取り組んでまいります。

井上委員 生涯学習室はAが無くBが8つ、教育研究室はAが9つでBが4つ、学校教育室はAが1つでBが無く、教育総務室はAが4つでBが無いというように各室ごとに較差があるように見える。

教育長 各室の所管するところ、はっきりと区切りをもって評価できる内容と生涯学習室のように区切りが無いところがある。進捗状況としては、非常にがんばっている。特に生涯学習室の仕事の中身について、変換をさせた部分がある。家庭教育をしっかりとやっていこうという部分では、これからどんどん進めていく状況です。いろいろ新しいアイデアも出していただいている。ゆくゆくは限りなくAに近づいていくと考えている。

井上委員 この評価というのは、市役所内一律で使っているのか。この評価が向くものと向かないものがある。生涯学習の事業は、まさしく向かない。向かないからAがなくてBが8つという評価が起こる。教育総務室は、工事なので、この評価が向いている。向くものと向かないものがあるのが分っているのに一律に評価を行うのは、数字や記号として出てきたときには、つらいものがないだろうかというのは、感想として持つ。

教育長 市の財政が逼迫しているという状況の中で、とにかくしっかり評価をして、全部の事業で財政が有効に使われているかどうかを見直していこうという今年の財務部の方針である。その方針に従って評価シートを書かせていただいている。井上委員ご指摘のように全てがこれに向いているとは思っていない。その点について

は、それぞれの場において、私のほうで意見を申し上げさせていただく。

井上委員 是非とも、よろしくお願ひしたい。Bが一人歩きされると困る。

委員長 43ページの成果指標の部分ですが、28年度が実績になっている。それと目標値が25年度の実績から下がっているのは、何か意図があるのか。

研究室長 28年度は、目標値です。

学校室長 3ページに同じものがありますが、現状値は平成22年度の数値で、授業理解度についての目標値は、現状値を元に5年間で5%の上昇を目指している。授業理解度はそう簡単に上がりませんし、対象も変わっていきます。

委員長 年齢が進行して、卒業をしていく。理解した。
(ほかに質問はなく、議案第32号は可決される。)

10. 報告事項

委員長 報告事項1「平成25年9月補正について」説明を求める。

教育次長 各担当室長から説明する。

(各担当室長説明)

委員長 生徒指導事業は、財源の組み換えで、市単から県の補助金になっているということか。

研究室長 そうです。

委員長 質問もありませんので、次にレディネステストの結果について、説明をお願いします。

(研究室長説明)

井上委員 教育委員会の事務局としてもどかしい思いを感じていないか。数字に一喜一憂する必要は無いが、子どもたちに確かな学力を付けてあげるのは使命ですから、今の状態が確かな学力がついているとは判断しづらいのではないかという気がする。この問題については、指導方法の改善であるとか、学習習慣の定着であるとか、学習規律の確保であるとか、そういったことがキーワードとして出されてきたと思うが、この評価報告書や室長の話聞いてるとこの3つのキーワード以外のことを考えなければならない

と思う。学校間での温度差という言葉が使っている。管理職のリーダーシップ、中1では低いが中2では大きく伸びている。中1が低いということは、小学校の時に定着していないということだと思う。学力の2極化という言葉、2こぶラクダ学びから逃避をしている子どもたちが増えている。今申し上げたところもキーワードにしながら、教育委員会と学校が連携し、学力向上定着に向けて、取り組みをやっていっていただきたい。

教育長

レディネステストは、数値とかデータとかきちっとしたのではなく感触であって、こういった試験に向き合う姿勢というのが、特に小学校において、先生の捉え方、そして子どもたちのテストに対する向き合い方という部分で、前向きに捉えるという考えが進んだと実感している。今年度、業者を変えたが、この業者は、以前は小学校に対してレベル的に高すぎると選定を避けたが、一人の経年変化を見ることによって、その子がそれぞれの学習に対してどのように向き合っているのかを知りたいので、中学校と同じ業者とした。これからその様子を見ていきたい。それとここには、管理職のリーダーシップとか、効果的な研修計画の確立とか、学校の温度差ということもあるが、やはり小規模校で一体的にまとまって取り組みをしている学校、様々な境遇の中ですごしている子どもたちをたくさん抱えている学校との捉え方とか、教員の年齢のばらつきとかがあり、こういう表現になっていると思うが、試験に対する構えというのは、前進していると思っている。その中で気になるのは、教師の授業力について、てこ入れをしていく必要があると感じている。講師の先生の授業を見ていると、授業のレベルをもう少し子どもの力を信じて、レベルを上げた授業を行っていく中で、子どもたちの意欲的な取り組みを引き出すことができるのではないかと感じる。

委員長

教育長がそういう実態を見られて、校長はそのことを把握しているのか。

教育長

具体的に授業のやり方等について、指摘や感想を伝えていきます。これは簡単には変わるものではないので、教師の研修など手立てを考えなければならない。

委員長

工事及び委託事業の発注状況の説明をお願いします。

(総務室長、生涯室長、まち室員から工事及び委託の発注

状況を報告する。)

委員長 除草作業について、3月までだが、何回行うのか。
まち室員 2回を予定しています。
(ほかに意見はなく、報告を終わる。)

委員長 教育委員会行事報告及び予定表について説明を求める。
(総務室長、学校室長、研究副室長、生涯室長、図書館長、
歴博館長、まち室員から教育委員会行事報告及び予定表に
ついて報告する。)

教育長 亀山市の出身である上田秀洋絵画展が文化会館で行われたが、
上田氏から作品を亀山市に1点と野登小学校に1点、寄付をいた
だくことになったので報告します。

1 1. その他

委員長 その他の項について、「亀山市青少年問題協議会条例」につい
て説明を求める。
(生涯室長から説明する。)

委員長 平成26年度亀山市立幼稚園入園児募集要項について説明を求
める。
(総務室長から説明する。)

井上委員 現在、幼保と小学校の接続カリキュラムを作成しているとい
うことだが、就学前教育のあり方については、市内で議論はされて
いるのか。

教育長 国の子ども子育て支援会議を受けて、亀山市でも一般の方も含
めて会議を行っているところです。子ども総合センターの管轄に
なるが、教育委員会からも参加している。

委員長 9月定例会の開催日は、9月26日木曜日9時30分からとす
る。

1 2. 閉会

16時00分